

全科協ニュース

URL <http://www.kahaku.go.jp/jcsm/>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成21年5月1日発行（通巻第226号）

特集：博物館と観光

国際博物館会議（通称イコム）は5月18日を国際博物館の日と定めています。今回は2009年国際博物館の日のテーマ「博物館と観光」にちなんでの特集とさせていただきました。

御木本幸吉の理想と真珠博物館の接遇

ミキモト真珠島 真珠博物館 館長 松月 清郎

ミキモト真珠島は三重県鳥羽市の湾内にある総面積24,000㎡ほどの小島で、市街とは60m余りの橋で結ばれている。

ここは明治26年、御木本幸吉が最初の養殖真珠を手にした場所であり、現在では島内に真珠博物館と御木本幸吉記念館のふたつの展示施設、それにショップとレストランを擁

して年間約30万人の入場者をお迎えしている。

御木本幸吉がこの島に観覧設備を整え、主に外国からの来客を迎えたのは昭和のはじめのことで、「真珠が島」と称した当時から、国際的なもてなしの場所としての性格を与えられていた。これは尊敬する渋沢栄一翁の勧めに応じて、翁の尽力された日米親善の「バトンを引継ぐ」幸吉なり



国際動力会議一行と御木本幸吉（昭和4年）



スタッフが真珠の成因などを詳しく説明

の事業だったといえる。当時、養殖真珠が海外で市場を拡大する途上で、その養殖過程について外国人の関心が高まっていた。幸吉はこれを受けてさまざまな真珠資料とともに養殖場に従事する海女の作業を見せ、外国人の期待する旅情でもてなした。現在、アーカイブに多数残る賓客の写真の表情から、その満足度が読み取れる。

戦争の激化に伴って島は一時閉鎖されるが、昭和26年、新たに会社として発足、戦後の経済発展と歩調をそろえるように、国内外から多くの来客を迎えることとなった。島内設備もその都度更新が加えられ、昭和60年には博物館を開館、資料の収集から展示普及に到る基本的な要件を充たしている。

発足当時からそうであったように、現在でも外国からの来客の真珠に対する関心は高いものがある。私どもでは真珠というものを科学、産業、歴史、美術など様々な角度からご紹介しているが、基本となる真珠形成の過程については解説員による説明を行っている。以前は実際の貝を用いて作業実演をお見せしていたが、現在では映像とトークによる説明に切り替え、伝わる情報は実演に劣らないものと考えている。それに続く真珠の装身具への加工工程にも説明員を配しているの、来客とスタッフの間に対話が生まれ、楽しく、活気ある空間になっている。従って予想以上に時間を費やすことになる来客も多いものと思われる。

また、天然真珠を用いた西洋の装身具コレクションや御木本の戦前の作品、かつて日本の真珠を海外に紹介する目的で制作された工芸品などがある二階の展示室も来客がゆ

っくり時間を過ごすことのできるフロアである。ここには解説員は常駐していないが、関連書籍を揃えたレファレンスカウンターに近い、図書の閲覧と併せて質問を受けることもしばしばある。一般に、来客の関心の度合いが多岐にわたっている観光地の博物館では相手の要求に即した木目細かい対応が求められ、その意味からも機械に頼らない、人による説明が適していると考えている。

現在、国内の観光地は海外からの来客、わけでもアジア地域からの旅客を招致することに精力を注ぎ、私どもの施設のある鳥羽市もその例外ではない。団体によるツア

ーが基本となる現在の形態では、一施設の単独の努力には限界があり、やはり地域ごぞつての観光客誘致活動に多くを依存してゆかなくてはならないだろう。ただし様々な施設のなかで、その地域ならではの特色ある魅力を訴求できるのもやはり博物館美術館であって、このことは私たちが諸外国に出かけた際、しみじみと実感するところである。前段の文脈でいうなら、こうした海外からの来客に対応すべく、さまざまな外国語の学習が今後の博物館学芸員の必須科目となることは充分予想される。英語はいうに及ばず、アジアの各言語のいずれかを選択して磨きをかけないと、そもそも伝達ということを経営の中核とする学芸員の職務が成立しなくなる。学芸員にかぎらず博物館職員に求められる資質というののもずいぶん多様かつ高度になったことを痛感するが、このような時代の要求への対応がない限り、とくに観光地にある館の訴求力が弱くなることは目に見えている。

最近出版されたミシュラン社の日本観光ガイドブックで私どもミキモト真珠島は二つ星を頂戴した。地道におこなってきた事業に対して多大な評価をいただき、たいへん名誉なことと思っている。これからも先人が培ってきた来客に対するもてなしの心を博物館の教育普及活動においても忘れることなく努めたいと考えている。

科学館における営業（来館促進）活動

日本科学未来館

連携推進室 連携推進グループ 戸高 章子

1. はじめに

日本科学未来館（以下、未来館）は「先端科学を文化のひとつとして社会全体で共有する」のコンセプトを基に、すべての人に開かれたサイエンスミュージアムとして平成13年に東京お台場に開館し、8年目を迎えました。未来館では先端科学と人をつなぐための拠点として、来館の促進活動を営業部門として推進して来しました。以下、簡単ではありますが、未来館が取り組んできた営業活動をご紹介しますと思います。

2. 営業（来館促進）活動の概要

今年度（平成20年度）の来館人数は90万人を超える実績となり、開館より8年連続で来館人数が増加し、非常に稀有なケースになっています。これは未来館全体としての組織力で達成した成果ではありますが、営業部門の活動も大きく貢献しているものと思われます。

科学館の運営において、“営業活動”は馴染みが薄いものですが、増収入を主目的とする一般的な営業と比べ、増収入だけに止まらず、未来館の社会に対する役割を遂行するための情報発信及び来館促進と幅広く外部とのネットワークの拡張を目指すところが相違点でもあります。

東京お台場は、年間を通して多くの方が訪れる観光地であり、必然的に未来館への来館も見込められると思われがちですが、未来館は来訪者が集中するエリアからは離れた立地で、来館者の増加は決して容易なことではありませんでした。

開館当初は認知度も低く、来館者数の伸び悩みが見られたことで、まずは全国各地をこまめに訪問し、未来館の理念を的確に伝えました。活動の理解を得ることで未来館の認知度の向上を図り、未来館へ足を向けるきっかけを作るために、各種機関や組織等のネットワークを活用して効果的な周知活動を実施しました。

営業に近道はないと言われているように、特別な活動ばかりをしているわけではなく、基本は普遍的な営

業セオリーを踏襲しています。すなわち広域を対象にした継続的なアプローチで新規開拓を行い、併せてアフタケアにも十分に配慮することでリピータ増加を目指しています。

勿論、活動には様々な制限が付きもので、科学館を取り巻く環境も刻々と変わっており、年々ますます条件が厳しくなり、これまで同様に活動を拡張し続けることに無理も生じてきています。限られた条件の中で最大限の成果を上げるために、過去の様々な取り組みでの効果を分析することで取捨選択を繰り返し、マーケティングリサーチを基に、未来館で計画する各種イベント等と効果的に連携するなど、ポイントを押さえた営業活動をしています。

3. 主な活動内容

国内の来館促進活動としては学校団体の獲得に重点をおいた活動を実施しています。校外学習や修学旅行での訪問先としての誘致を図るために、まずは各都道府県において来館が見込まれるターゲットの地域、対象学年、旅行催行時期等のマーケティングリサーチを徹底して実施しています。リサーチで得られた情報を活用することで、限られた時間の中で効果的・効率的に来館促進を継続していくことが可能になりました。また、リサーチや情報発信先としては、学校だけでなく、旅行代理店へも同様に行うことで、代理店からの学校における各種教育旅行情報の取得、学校への施設情報発信の促進にもつながります。特に修学旅行は旅行代理店を利用することが多いため、学校が代理店選定をする前、代理店決定後の旅行行程を詳細に決定する時期の両者への営業活動は非常に効果的です。一方、教育委員会への働きかけにより、管轄内学校への効率的な情報発信や、教員研修等での視察受入も併行して実施することで、認知度向上や未来館見学による学習効果をアピールしています。

国内の来館者誘致と同様に、未来館では前述の「すべての人にひらかれたサイエンスミュージアム」として外国人への来館促進活動も実施しています。対象としては国内在住の外国人だけにとどまらず、海外（主に来日数の多い東アジア地域）からの訪日旅行者への来館促進を積極的に進めています。特に中国、韓国などからの訪日教育旅行での来館を取り込むために、行政・自治体等の観光振興団体、国内インバウンド取り扱い旅行代理店との連携・営業活動を強化し、広く未来館の周知と教育旅行先としての有効性を訴えています。

また、訪日外国人誘致にあたっては、未来館単体の営業活動には限界があるため、訪日観光地として「臨海地区」の魅力をアピールすることが団体のみならず個人旅行者への来館誘致において有効になると思われます。そのため、未来館としても今後は近隣施設との連携による周遊プログラムの開発も併行して進め、

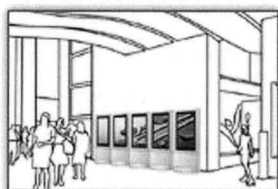
来館者獲得に結び付けたいところです。

4. 最後に

世界的経済不況に見舞われている昨今、博物館・美術館・科学館等の文化施設も特別な存在では無くなってきており、これからも目まぐるしく変わることが予想される時代変化に即座に対応するために、自ら競争力を身に付け、業界の連携を更に強化することで社会に対して文化施設の重要性を浸透させる必要があると思われる。

映像・情報配信ソリューション NMstage

入館案内表示



チケット売場



館内案内板



展示スペース



NMコントロール端末

大型映像表示装置

パナソニックSSマーケティング株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-5 新宿三光町ビル

電話03-5919-5176 FAX03-5919-5216

<http://WWW.pssm.co.jp>

小さなボディーに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム

メディアグローブII (MEDIAGLOBE-II)

メディアグローブIIは世界で初めてフルカラー投射を可能にした小型デジタルプラネタリウム“メディアグローブ”の後継機種。地上で見られる星空の投射だけでなく、3D天文データベースによる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配ありません。小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けします。



コニカミルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒173-0003 東京都板橋区加賀 1-6-1

大阪事業所 〒550-0005 大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階

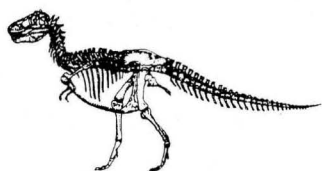
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町 1-8

TEL (03) 5248-7051

TEL (06) 6110-0570

TEL (0533) 89-3570

※ 世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 ゼネラル サイエンス コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-11-14 赤坂ベルゴビル802

TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、が
溢れています。



Prosperity Creator
NOMURA
<http://www.nomurakougei.co.jp/>

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン・設計・制作施工
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171 (代表) 〒135-8622
営業拠点：札幌・仙台・岡山・広島・高松・福岡・那覇・ニューヨーク・北京・上海

火山研究所と付属博物館：ツーリズムへの協力

ロシア科学アカデミー極東支部火山学・地震学研究所火山鉱床学研究室長

オクルーギン V. M.

ロシア科学アカデミー極東支部火山学・地震学研究所火山鉱床学研究室

アンドレーエヴァ E.

火山研究所と付属博物館

知床岬、納沙布岬から千島列島を辿っていくと、カムチャツカに行き着く。正しくは、「カムチャツカ地方」である。カムチャツカ地方の中心都市ペトロパブロフスク-カムチャツキー市から札幌までの距離は、札幌から福岡までのそれよりも短い。

カムチャツカ地方ペトロパブロフスク-カムチャツキー市には主な博物館が3つある。郷土博物館、(ごく小規模の)地学博物館、そして我々の火山学・地震学研究所(以降、火山研究所と略)の付属博物館である。

火山博物館は1964年に火山研究所の設立とともにつくられた。その後、2004年に、火山研究所は、ロシア科学アカデミー極東支部の火山研究所として再編された。火山研究所

には、かつて700人もの研究者が働いていたこともあったが、現在では、研究者は約270人である。我々は現在起っている火山・地震活動の調査を行うとともに、過去・現在の火山・地震活動の過程に関する研究も行っている。研究所では、クリュチ村(カムチャツカ北東部)、パラトゥンカ(市近郊)、セーヴェロ・クリルスク(北千島)に地震計を置いている。

研究所は、研究だけではなく、一般向けの活動も行っている。研究員は講義を行ったり、ラジオやテレビで話したり、火山や地震の危険性について新聞にコメントを出したりする。カムチャツカには約30の活火山があり、ペトロパブロフスク-カムチャツキー市は4つの火山(アヴァチャ山、コリャーク山他)に囲まれている。さらに、カムチャツカ半島の太平洋側から千島列島・日本太平洋岸は世界でも有数の地震・火山活動域である。「噴火が、地震がいつ起きるか?!」という問題は、カムチャツカ全体や、ペトロパブロフスク-カムチャツキー市の住民にとって重大な関心事なのである。

博物館は、まだ75㎡と小面積であるが、10以上のテーマに沿った展示を行っている。1. カムチャツカ火山の国、2. カムチャツカの地震、3. 環太平洋火山帯、4. 大陸-海洋の移行地帯における火山活動、5. カムチャツカの温泉、6. 火山活動期・終期における産物、7. カムチャツカの地下資源、8. ロシアの鉱物、9. 1975-76年のトルバチク火山大地溝、10. カムチャツカ火山ニュースなどである。また別に、科学アカデミーによるカムチャツカ研究史も展示されている。

このような一般向けの啓蒙活動は、博物館の重要な役割である。さらに、博物館は市民向けのレクチャーとして、「1. カムチャツカの火山と地震」「2. 世界でも独特な地域であるカムチャツカ」「3. カムチャツカは、日本・中国・韓国の近隣地域の1つ」「4. カムチャツカの地下資源」



火山博物館で展示を前に説明するオクルーギン氏

「5. われわれの地域をよく知って好きになろう(小学生向け)」などの題での講義を、研究所と協力して行っている。

ツーリズムにおける博物館の役割・活動

火山博物館のもう一つ重要な役割は、ツーリズムへの協力である。カムチャツカには非常に優れた観光資源がある。カムチャツカ地方の14.5%以上の地域は特別保護区に相当し、その中には連邦レベルの保護区も6つ含まれている。カムチャツカにはロシアで最も活発な火山が集中しており、ここの火山の噴出物量は全地球の20%を占める。カムチャツカの自然の特徴は、人間活動がまだほとんど及んでいないことである。カムチャツカの人口密度は0.7人/km²(都市以外では100km²に1人以下の所もある)なので、このような密度は日本や欧米諸国から見ると、150~200年前の時代に戻ったような感覚であろう。

さらに、カムチャツカにはツーリズムのためのレクリエーション資源がある。カムチャツカの冬は温暖で雪が多く、山麓には夏でも雪があるので、ここでは11月初から翌5月初まで雪が残っている。5月末から10月末までは、アヴァチャ山・コゼーリ山山麓斜面に山スキー場ができる。10月から翌7月までは、雪山の頂上からスキーやスノーボードで滑降できる。最近では、2000m級の山々の頂上にヘリコプターで着陸してそこから山を滑降するヘリ&スキーも行われており、刺激を求めるスキーヤーの間で人気が高まっている。

その他、フィッシングも人気プログラムの1つである。夏から秋にはあらゆる種類の鮭・鱒が釣れ、冬には海釣り・川釣りができる。春から秋には、ハンティング・ツアーも出る。温泉もある。ドリナ・ゲイゼロフ(間欠泉の谷)は2008年、ロシアの「七不思議」の1つに指定された。このようなカムチャツカの自然は多くの観光客を惹きつけている。

1990年まで、カムチャツカは軍の閉鎖地域であり、普通の外国人がカムチャツカに入れるようになったのは、1990-91年からである。それが、2008年には、一万人を超える外国人が当地を訪れた。これは、カムチャツカにとっては、大変な数である。カムチャツカはまだこれだけの人々を受け入れる準備ができておらず、「西側の」サービスの提供もできていない。旅行会社は今では50社もあるが、完全に仕事をこなせていないのが実情である。それに加えて、旅行会社には、カムチャツカの火山活動・地質・鉱物・生態など、カムチャツカの自然を紹介できるような専門性を持った

人材が居ないという悩みがある。

そこで火山博物館も、可能な限り旅行会社のサポートをしている。旅行者にレクチャーをしたり、研究所の研究者と協力して、市内・火山見学ツアーにガイドとして付き添ったりしている。旅行会社は火山・温泉を含むツアーをたくさん組んでおり、火山博物館にレクチャーやガイドを依頼してくるので、火山博物館は旅行会社と契約を結んでそれらの仕事を引き受けている。

レクチャーは、博物館の展示や、壁いっぱい貼っている研究成果のポスターの前で行う。1996年、カムチャツカ半島中部のカリムスキー山噴火の際、山麓の湖の湖底でもマグマの噴出が起これ、水温が上がるとともにpHが変化して湖水性ベニザケなどの希少種を含むすべての生物が絶滅してしまったことがあった。火山研究所では、火山の噴出物・水質の分析や、噴火による地形の変化の測量を行っており、その最新の結果を旅行者に説明している。去年は、ペトロパブロフスク-カムチャツキー市の「裏山」であるコリャーク火山が半世紀振りに噴火したので、その説明も加える予定である。これらの説明は、その山を訪れたいと思っている旅行者や、アヴァチャ山登山を予定している旅行者から、面白い、と好評を博している。

火山ガイドには、特に若手の研究者の卵が活躍している。筆者の一人であるアンドレーエヴァは、地学・火山研究の傍ら、数シーズンにわたってクリュチェフスカヤ火山のガイドとして働き、ドイツやフランスの旅行者の登山にガイドとして付き添った。火山以外にも温泉、鉱山や、アヴァチャ湾のクルーズなどにも付き添うことがある。これらの若手研究者は火山学・地学を学ぶ者として、且つカムチャツカの住民として旅

より良い「社会交流空間づくり」にむけて—。

調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・
運営およびコンサルティング・プロデュース

 Tanseisha

株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2
TEL.03-3836-7221(代表) <http://www.tanseisha.co.jp>
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

※ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得



火山研究所から見たコリャーク山（標高3,456m）

行者のいろいろな質問に誠意をもって答えようとするので、ツーリストに喜ばれている。しかし、彼らは外国人に分かり易く伝えることの難しさについても感じているようで、いろいろな面で良い経験を積んでいる。日本の旅行者は好奇心旺盛で忍耐強く、自然が好きで、知識が豊富な人が多いので、ガイドするのが楽しい、という学生もいる。

火山博物館には年間1500人以上、我々のような博物館にとっては非常に大勢の人々が訪れているが、我々は今後も是非多くの人々に来ていただきたいと思って

いる。特に、隣人である日本のツーリストの方々は歓迎である。

原文（ロシア語）翻訳：国立科学博物館 福田知子

火山博物館

<http://www.kscnet.ru/ivs/eng/index.html>

火山博物館の見学には旅行会社などを通じて事前予約が必要です。

高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

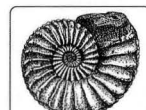
kokoro

株式会社 **ココロ**

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本



since 1974

地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL. 03-3354-0131（代表）◆

Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

TEL.03-3350-6725 FAX03-3350-6745

<http://www.tokyo-science.co.jp>

E-mail: info@tokyo-science.co.jp

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

米サンタバーバラ自然史博物館で、放チョウ園を開催へ

カリフォルニア州サンタバーバラにあるサンタバーバラ自然史博物館で、生きたチョウを紹介した放チョウ園が2009年5月22日にオープンする。空中を舞う姿や花から蜜を吸う姿を見ることができる(約1000匹)。会期は2009年9月21日まで。

Butterflies Alive!

Santa Barbara Museum of Natural History.

[http://www.sbnature.org/exhibits/2009.](http://www.sbnature.org/exhibits/2009.php#runningnumbers)

[http://www.sbnature.org/exhibits/2009.](http://www.sbnature.org/exhibits/2009.php#runningnumbers)

サイエンス・ノース科学館で、深海の生物展を開催へ

カナダのオンタリオ州サドバリーにあるサイエンス・ノース科学館で、深海に棲む生物の生態を紹介した特別展が2009年5月22日から始まる。世界最大のイカであるダイオウホウズキイカの実物大模型が見れるほか、有人深海探査船アルビン号をモデルにした潜行シミュレーション装置が用意されている。

Creatures of the Abyss.

Science North, Sudbury.

<http://sciencenorth.on.ca/science-attractions/cota/>

米アメリカ自然史博物館で、巨大哺乳類展を開催へ

ニューヨークのアメリカ自然史博物館で、既に絶滅してしまった巨大内哺乳類等を化石標本を使って紹介した企画展が2009年5月16日から始まった。「剣歯虎」として知られる絶滅哺乳類「スミロドン」等の化石が見れる。会期は2010年1月3日まで。

Extreme Mammals.

American Museum of Natural History, New York.

<http://www.amnh.org/exhibitions/extrememammals/>

米カーネギー自然史博物館で、地球温暖化展を開催へ

ペンシルバニア州ピッツバーグにあるカーネギー自然史博物館で、地球の温暖化をテーマにした特別展(写真展)が2009年6月15日から始まる。同展はボストン科学博物館を皮切りに、ブルース博物館等で開催され、カーネギー自然史博物館の後は、フレズノ博物館やモントシャール科学博物館等で開催される予定だ。会期は2009年9月14日まで。

Double Exposure.

Carnegie Museum of Natural History, Pittsburgh.

<http://www.doubleexposure.net/>

<http://www.carnegiemnh.org/exhibits/index.html>

米シカゴ植物園で、鳥と虫の巣作り画展を開催中

ペギー・マックナマラは、鳥類や虫の水彩画を描くことで知られている米国のアーティスト(イリノイ州エヴァーストン在住)だが、鳥類と昆虫の巣づくりを描いた作品展が、シカゴ植物園で2009年5月2日から開催されている。会期は2009年9月28日まで。

Peggy Macnamara: Architecture by Birds & Insects.

Chicago Botanic Garden, Glencoe.

<http://www.chicagobotanic.org/exhibitions/index.php>

<http://www.peggymacnamara.com/>

米シカゴ科学産業博物館で、ハリー・ポッター展を開催中

米国では人気娯楽映画の展覧会を科学系博物館で開催することは何も珍しいことではない。だが賛否両論もある。娯楽映画はただ娯楽映画としてとらえたらいいという意見もあれば、ああいうのは観客動員だけ目的でなんら科学博物館の使命とは関係ないという強行な意見もある。すでに『タイタニック』、『スター・ウォーズ』、『スタートレック』等々が米国各地の有名な科学博物館で開催されてきており、観客動員数も多い。このほどシカゴ科学産業博物館でも、ハリー・ポッター展が2009年4月30日から開催されている。同展では、映画に登場するセットをはじめ、衣装や小道具等が紹介されている。『ハリー・ポッター』の物語に、科学的な意味を求めるのは、やや無理があるかも知れないが、観客を動員できることは間違いないようだ。はっきりしていることは、『ハリー・ポッター』は、想像力をかき立て、おとぎの世界に引き込むことは確かだ。会期は2009年9月27日まで。

Harry Potter: The Exhibition.

Museum of Science and Industry, Chicago.

[http://www.msichicago.org/whats-](http://www.msichicago.org/whats-here/exhibits/harry-potter/)

[here/exhibits/harry-potter/](http://www.msichicago.org/whats-here/exhibits/harry-potter/)

米ニューヨーク植物園で、エーレット植物画展を開催中

ゲオルグ・エーレット (Georg Dionysius Ehret) は18世紀ヨーロッパにおける植物画の最高の絵師であるが、現在ニューヨーク植物園で、彼の作品展が2009年4月18日から開催されている。彼が残した二つの有名な肉筆画集である『Plantae Selectae』と『Hortus Nitidissimus』

も会期中に見ることができる。会場：園内のメルツ図書館。会期は2009年7月19日まで。

Georg Ehret: The Greatest Botanical Artist of the 1700s.

The New York Botanical Garden, Bronx.

<http://www.nybg.org/spring09/ehret.html>

ソフィア自然史博物館で、クモ展を開催中

ブルガリアの首都ソフィアにある国立自然史博物館は今年創立120周年を迎えたが、その創立記念事業のひとつとして、クモの生態を紹介した企画展が2009年1月10日から開催されている。ブルガリアは長くクモに対する偏見があり、悪魔の化身として思われがちのようだ。同展はそうした偏見を特に子ども達の間から払拭するのがねらいになっている。同展はソフィアでの開催のあと、ブルガリア各地を巡回する予定だ。

Museum of the spider.

National Museum of Natural History, Sofia.

http://www.nmnh.com/news_en.php?id=09010801

米エクスポラトリウムで、鏡像展を開催中

サンフランシスコのエクスポラトリウムでは、鏡像（または鏡映ともいう）をテーマにした企画展が2009年6月15日から開催される。ニューヨークを活動の拠点にしているアーティストのダニエル・ロジンの鏡を使ったインスタレーションが目玉展示として設けられ、観覧者は巨大な曲面鏡等に映る自分の変貌自在な姿を見て、自分自身のさまざまな可能性について発見できるようになっている。会期は2009年9月20日まで。

Reflections.

Exploratorium, San Francisco.

<http://press.exploratorium.edu/reflections-june-2009>

米アメリカ自然史博物館で、気候変動展を開催中

ニューヨークのアメリカ自然史博物館で、気候変動をテーマにした特別展が2008年10月18日から開催されている。気候変動が海や陸地に与える影響、氷河融解、代替エネルギーの可能性、現在問題になっていることなどが取り上げられている。同展は、アメリカ自然史博物館での開催のあと、クリーブランド自然史博物館、フィールド自然史博物館、ブラジルのサンガリ博物館（サンパウロ市）、コペンハーゲン国立自然史博物館、メキシコのパパロテ子ども博物館の他、2002年に韓国で初めて設立された環境専門の公益財団「韓国グリーン財団」で開催される予定だ。アメリカ自然史博物館での会期は2009年8月16日まで。

Climate Change: The Threat to Life and A New Energy Future.

American Museum of Natural History, New York.

<http://www.amnh.org/exhibitions/climatechange/>

ユーレカ科学館で、レーシングカー展を開催

フィンランドの首都ヘルシンキの郊外にあるユーレカ科学館で、レーシングカーの速度、レーシングカーがレース中に受ける風力、レーシングカーの構造などを科学の視点から紹介した特別展が開催された。会期：2008年3月15日～2009年3月15日。

SPEED - Science in motion.

Heureka, Vantaa.

<http://www.heureka.fi/>

米スミソニアン自然史博物館で、ダーウィンと蘭展を開催

ダーウィンはラン（蘭）を使って、自然淘汰と進化論を極めたが、そうした彼のランの研究を紹介した特別展が、とワシントンDCのスミソニアン国立自然史博物館で開催された。会期：2009年1月24日～4月26日。

Orchids through Darwin's Eyes.

National Museum of Natural History, Washington DC.

<http://www.mnh.si.edu/exhibits/orchids/index.html>

米サンタバーバラ自然史博物館で、鳥類展示室を開設

サンタバーバラ自然史博物館で鳥類展示室がリニューアルされて2008年9月12日にオープンした。新しくなった常設展示では約500羽の鳥類の剥製を見ることができる。飛行の進化をはじめ、繁殖戦略や生態を紹介したジオラマが新しく紹介されることになった。世界的な鳥類学者であり、21年にわたって同館の館長をつとめたデニス・M・パワー博士にちなんで、新しい施設は「デニス・M・パワー記念鳥類ホール」と名付けられた。整備に180万ドルの寄付が個人や団体等から調達された。

Dennis M. Power Bird Hall.

Santa Barbara Museum of Natural History.

<http://www.sbnature.org/exhibits/birdhall/opening08.php>

<http://www.sbnature.org/exhibits/birdhall/dennispower.php>

＊(やすい・りょう) E-post:ZAKvaran@aurora.ocn.ne.jp

5月6月の特別展

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
旭川市科学館	企画展「日本の野生動物～久保敬親写真展」	4月25日～5月31日
釧路市こども遊学館	ゴールデンウィーク特別展「木のおもちゃであそぼう！」	4月29日～5月6日
岩手県立博物館	テーマ展「『いわての女性』展 結婚・子育て・山里の暮らし ～昭和のかあちゃん～」	3月14日～5月10日
秋田県立博物館	特別展「白岩焼」	4月25日～7月5日
山形県立博物館	共同企画展「縄文ヴィーナス誕生の地～西ノ前遺跡～」	5月2日～6月7日
	企画展「庄内砂丘と海岸林～クロマツ林の歴史と自然～」	6月20日～7月26日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「リングワールド～土星の世界～」	4月7日～5月31日
	ホワイエ企画展「世界の望遠鏡」	6月2日～6月30日
つくばエキスポセンター	特別展「スポーツを科学する」	3月20日～5月31日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第45回企画展「竹展～しなやかな空間への招待～」	3月14日～6月14日
栃木県立博物館	テーマ展「化石からみる植物の進化」	4月18日～9月23日
群馬県立自然史博物館	第32回企画展「わかった！かわった？群馬の自然」	3月14日～5月6日
鉄道博物館	企画展・第2回コレクション展「時刻表」	4月22日～8月31日
国立科学博物館	特別展「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」	3月14日～6月21日
	企画展「琉球の植物」	3月24日～5月17日
たばこと塩の博物館	特別展「デザインの力～たばこにみる日本デザイン史～」	4月18日～5月29日
	企画展「イラストレーター170人による“わたしの句読点”」	6月6日～7月5日
消防博物館	ゴールデンウィーク企画展「消防わくわくランド～行きた く‘なるほど’消防博物館～」展	4月25日～5月10日
多摩六都科学館	ゴールデンウィーク特別展「時空探検隊、出動！～科学館 はタイムトンネルだ！～第2弾」	4月1日～5月10日
三菱みなとみらい技術館	特別展「ようこそ『きぼう』へ！～宇宙実験とわたしたち の未来」	9月13日～5月6日
電気の史料館	収蔵品展 ～錦絵や写真でみる電気の歴史～	3月24日～5月10日
馬の博物館	特別展「横浜開港150周年記念 文明開化と近代競馬」	4月25日～6月7日
	テーマ展「平治の乱850年 伊勢平氏の栄華と滅亡」	6月13日～8月9日
	テーマ展「馬の紙幣」	6月13日～8月9日
はまぎんこども宇宙科学館	企画展「魔法の板・カプラ つんで、つんで、なにつくる？」	3月20日～6月14日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「学芸員の活動報告展」	4月18日～5月31日
糸魚川フォッサマグナミュージアム	特別展「世界のジオパークをめざして～糸魚川のすばら しい地質遺産～」	4月26日(H20)～未定
新潟県立自然科学館	春の特別展 第2弾「KARAKURIワンダーランド～ロンド ン発・アートなカラクリふしぎ体験～」	4月25日～5月17日
黒部市吉田科学館	特別展「大西浩次 星景写真展～時空の地平線～」	5月1日～6月14日
	春のプラネタリウム「ぜんまいざむらい」	3月7日～5月31日
富山市科学博物館	企画展示「星景写真展」	3月20日～5月24日
	企画展示「世界を揺るがした宇宙の発見」	5月23日～7月12日
佐久市子ども未来館	開館8周年記念特別企画展「音のサイエンス広場 音と遊 ぼう！ドレミファらんど」	3月14日～5月6日
	科学における「美」のパネル展	5月9日～6月28日(予定)
岐阜県博物館	資料紹介展「養老のお坊さんが絵を描いた！～博物画と標 本による江戸の生物～」	4月25日～6月28日
	マイミュージアムギャラリー展示「ひょうたん展」	4月1日～5月10日
	マイミュージアムギャラリー展示「茶陶志野焼 親子三代展」	5月24日～6月28日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
中津川市鉱物博物館	第24回私の展示室「かきどおしの会」植物画展	3月8日～5月24日
静岡科学館る・く・る	富士山静岡空港開港記念「空ののりもの」展	4月25日～6月14日
ディスカバリーパーク 焼津	「ニュートリノってなあに！？ ～地底でさがす宇宙からのメッセージ～」	4月18日～7月12日
あいち健康プラザ 健康科学館	春の特別展示「集まれ！探偵アカデミー」	3月20日～6月28日
トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館	織りの美・おどろき発見～ジャカードの世界	5月26日～7月12日
鳥羽水族館	特別企画展「ドキドキ“サメ”展」	3月20日～(H22)2月14日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶ その備え～」	4月25日～6月7日
明石市立天文科学館	特別展「国際宇宙ステーション展」	3月20日～5月10日
	特別展「天体写真展」	5月16日～7月12日
出雲科学館	特別展「万華鏡展」	4月18日～5月17日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「笑顔でおいしく元気展」	3月1日～6月30日
防府市青少年科学館（ソラール）	特別展「自然界の水 台風がやってきた！」	4月15日～5月31日
	特別展「未来の科学の夢絵画展」	6月13日～6月28日
徳島県立あすたむらんど 子ども科学館	特別企画「サイエンス玉手箱」	4月25日～5月6日
愛媛県総合科学博物館	企画展「地衣類の世界」	2月28日～5月10日
北九州市立自然史・歴史博物館	春の企画展「ひとと海のものがたり」	3月1日～5月10日
佐賀県立宇宙科学館	春の企画展 温泉～「地球の恵み」を科学する～	3月20日～5月10日

* 前月 (Vol. 39, No. 2) の特別展情報で「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」と記載すべきところ、誤って「トヨタ博物館」と記載していました。ここにお詫び申し上げます。

｜ リ ニ ュ ー ア ル ｜

わくわくグランディ科学ランド

[リニューアルしたコーナー]

宇宙の科学 地球の科学

[展示面積] 約600㎡

[オープン期日] 平成21年3月20日

[準備期間] 基本設計 2005年

実施設計 2008年4～10月

施工期間 2008年12～2009年3月

[担当業者] (株)乃村工藝社

[総工費] 124,585千円



消防博物館

[リニューアルしたコーナー]

3階展示室において、改装のため、消防学習コーナー等の一部が撤去

新コーナーとして「空の消防隊」と「わが家の安全チェック」が完成

[オープン期日] 平成21年3月27日



科学技術館

[展示室名] 3E「アトミックステーション ジオ・ラボ」

(展示室全面リニューアル)

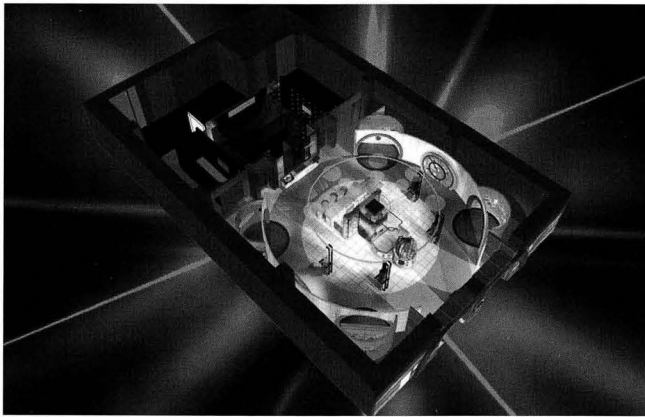
[更新の展示面積] 327㎡

[オープン期日] 平成21年 3 月24日

[準備期間] 2008年 2 月 1 日～2009年 3 月20日

[担当業者] (財)日本科学技術振興財団

[総工費] 非公表



[展示室名] 2D「ワクエコ・モーターランド」

(展示室全面リニューアル)

[更新の展示面積] 327㎡

[オープン期日] 平成21年 4 月 3 日

[準備期間] 2008年 5 月 1 日～2009年 3 月31日

[担当業者] (株)ウイルアライアンス、(株)丹青社

[総工費] 非公表

**北九州市立自然史・歴史博物館**

(北九州市立いのちのたび博物館)

[主な更新箇所] 常設展自然史ほけっとミュージアム

No.5「深海の甲殻類とその仲間たち」

[更新面積] : 約30㎡

[オープン期日] : 平成21年 4 月 1 日 (水)

[準備期間] : 4 ヶ月



展示予定の標本
(ダイオウグソクムシ)

たばこと塩の博物館

エントランスホール (138㎡) と前庭 (約70㎡)

◇オープンカフェを新設 (約110㎡) し、ミュージアムショップを無料で利用できるようにリニューアル

視聴覚ホール (96.7㎡)

◇モニターを大型にし、ハイビジョン映像も対応できる設備にリニューアル

[オープン期日] : 4 月18日 (土)

[準備期間]

基本設計:1 年、実施設計:6 ヶ月、施工期間:2.5 ヶ月

[担当業者] : 丹青社ほか

**全科協ニュース編集委員会**

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長

國府田良樹

大阪市立自然史博物館 学芸課学芸員 佐久間大輔

科学技術館 企画広報室室長 田代英俊

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課長 亀井 修

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課 守井

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成21年 5 月 1 日

発 行 全国科学博物館協議会©

☎110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印 刷 島崎印刷株式会社